

CAPCOM

第27期 中間事業報告書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで

(証券コード 9697)



● 会社の概要 (平成17年9月30日現在) ●

社 名 株式会社 **カプコン**
(CAPCOM CO., LTD.)

設 立 昭和54年5月30日

主要な事業内容 家庭用テレビゲームソフトの企画、開発、
販売ならびにアミューズメント施設の運営

資 本 金 275億81百万円

従 業 員 数 1,022名(連結1,220名)

主要な事業所 本 社 大阪市中央区平野町三丁目1番3号
研究開発ビル 大阪市中央区平野町三丁目2番8号
東京支店 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号

ホームページ <http://www.capcom.co.jp/>

目 次

会社の概要／株主の皆様へ	1
営業の概況	3
トピックス	4
財務ハイライト	5
中間連結財務諸表	6
中間単独財務諸表	8
株式の状況／役員の状況	9
IR情報	10



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

ここに当社グループ第27期上半期(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)の営業の概況と中間決算についてご報告申しあげます。

当中間連結会計年度のわが国経済は、原油高や輸出の伸び悩みはありましたものの、堅調な個人消費や設備投資に加え、雇用環境の改善や株価の上昇などにより、景気は踊り場から脱却し、緩やかながらも回復軌道に乗ってまいりました。当業界におきましては、昨年末に発売された新型携帯ゲーム機のけん引などにより、夏商戦から盛り上がり始め、全体として順調に推移いたしました。

加えて、通信インフラの整備に伴い、新たな収益基盤を求めてオンラインゲーム市場が活発化してまいりました。

また、アミューズメント施設市場は、既存店が伸び悩みましたものの、スクラップ・アンド・ビルドによる大型複

合商業施設への新規出店がその落ち込みをカバーするなど、大規模店が増加してまいりました。

一方、国内市場の成熟化や高機能、多機能化した次世代据置型ゲーム機の登場などを控え、大きな変化の波が押し寄せてまいりました。

こうした環境のもと、当社グループは組織改革によりマネジメント体制を強化するとともに、国内外の多様な顧客ニーズに対応するため自社タイトルに加え、他社との提携ソフト販売や既存人気商品の販促活動など、積極的な営業展開を推し進めてまいりました。

また、携帯電話向けゲーム配信やパチスロ機向け液晶表示基板の供給など、コンテンツビジネスを拡充するとともに、グループ全体の収益力を高めるため、重点戦略である海外事業の再構築を進めてまいりました。

この結果、連結売上高は278億1百万円(前年同期比2.6%減)となりました。

利益面につきましては、連結営業利益6億66百万円(前年同期比62.5%減)、連結経常利益9億7百万円(前年同期比38.9%減)となりました。

また、連結中間純利益につきましては、繰延税金資産に係る評価性引当金の見直しに伴う法人税等調整額を計上しました結果、31億24百万円(前年同期比474.7%増)となりました。

中間配当につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

今後の見通しといたしましては、ゲーム業界は年末から来年にかけて次世代機が本格的に登場することにより市場の活性化が見込まれるものの、主導権を巡って激しいサバイバルレースが繰り広げられるものと思われ

一方、ソフトメーカーはハードの高度化に対応した開発体制の拡充が焦眉の急となっております。

加えて、映画、音楽、玩具、メディア等、業界の垣根を越えた異業種からの参入などにより、新たな地殻変動が起こる可能性もあります。

業界の構造的転換が急速に進む状況下、当社グループといたしましては、環境の変化を直視しつつ、中長期計画にもとづいた主体性のある機動的なハイブリッド経営により臨機応変に対応を図るとともに、既存部門の強化や事業構成の見直し、競争優位性の確保、財務体質の改善に取り組んでまいります。

このため、開発部門の充実強化、的確なマーケティング戦略や国内外の市場ニーズに適合した商品の投入に加え、付加価値の向上を目指し当社のゲームソフトを活用したパチスロ機向け液晶表示基板の拡充に注力するほか、新たなビジネスチャンスを開き、成長分野や新規事業創出に向けて経営資源を投入し、商機の拡大を図ってまいります。

また、グローバルな営業展開を図るため、海外現地法人の強化などによりカプコングループ全体の効率的な事業配分と活性化を積極的に推し進め、子会社を含めた事業の再構築により企業体質の強化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成17年12月

代表取締役社長

高橋 三



コンシューマ用ゲームソフト部門

「ロックマン ゼロ4」(ゲームボーイアドバンス用)や「ロックマン エグゼ5 DS」(ニンテンドーDS用)が安定した人気により底堅い売行きを示すとともに、戦国時代の武将が競演する「戦国BASARA」(プレイステーション2用)が好評を博したほか、ゲームボーイアドバンス向けでヒットを放った初回作に新エピソードを追加した「逆転裁判」(ニンテンドーDS用)も手堅く伸ばしました。

また、海外では「キラセブン」(プレイステーション2・ニンテンドーゲームキューブ用)や他社との提携ソフト「ダークウォッチ」(プレイステーション2・Xbox用)が順調に販売を伸ばしたほか、廉価版タイトルも健闘いたしました。しかしながら、当期の商品ラインナップは下期にウェイトを置きましたため、中小型タイトルが大半を占めるとともに、欧米においても「ビートダウン」(プレイステーション2・Xbox用)や「デメント」(プレイステーション2用)などが伸び悩んだこともあって、全体として弱含みに展開いたしました。

この結果、売上高は143億73百万円(前年同期比17.3%減)となりました。



「ロックマン エグゼ5 DS」
(ニンテンドーDS用ソフト)
ゲームボーイアドバンス版「チーム オブ ブルース」「チーム オブ カーネル」がひとつになってニンテンドーDSに登場! タッチスクリーンを使った操作など、追加要素満載で大好評。



「戦国BASARA」
(プレイステーション2用ソフト)
戦国時代を舞台に、プレイヤーは個性豊かな16人の武将を操って天下統一を目指す。圧倒的なパワーで敵の大軍を倒す爽快感あふれるアクションゲーム。



アミューズメント施設運営部門

各種イベントの開催や店舗のリニューアルによる快適な施設運営など、ユーザー志向に立ったロケーション展開により、女性、ファミリー層等の新規顧客の取り込みやリピーターの確保等、客層の拡大に努めてまいりました。

当中間期は、福岡県のショッピングセンター内にニューヨークの街をイメージした「プラサカブコン直方店」を出店するとともに、1店舗を閉鎖いたしました。これにより、当施設は30店舗となっております。

この結果、売上高は56億42百万円(前年同期比1.1%増)となりました。



「プラサカブコン直方店」

「ニューヨーク」をテーマコンセプトに掲げ、ブロードウェイやミッドタウンなど華やかで大人の街並みをイメージした店内。

© CAPCOM CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

© CAPCOM 2004/ © Sammy © RODEO

© CloverStudio Co., Ltd. All Rights Reserved. DISTRIBUTED BY CAPCOM CO., LTD.

© 2004 Nintendo DONKEY KONG JUNGLE BEATは任天堂の商標です。



業務用機器販売部門

前期に発売いたしましたメダルゲーム機「スーパーマリオ 不思議の国 3D」が伸び、売上拡大に寄与するとともに、ビデオゲーム機「機動戦士ガンダムSEED 連合 vs. Z.A.F.T.」も根強い人気により販売を伸ばしたほか、メダルゲーム機「ドンキーコング ジャングルフィーバー」も健闘いたしました。

この結果、売上高は44億4百万円(前年同期比47.3%増)となりました。



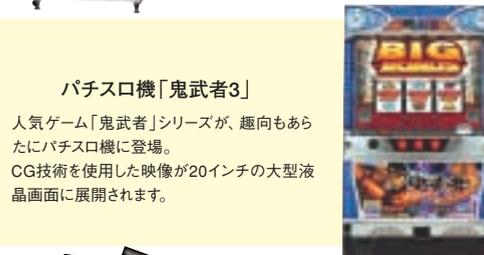
「ドンキーコング ジャングルフィーバー」多彩なミニゲームやアクションボタンにより、幅広い年齢層で楽しめるメダルゲーム。ジャングルを舞台にドンキーコングがハラハラドキドキの大冒険!



コンテンツエキスパンション部門

前期に好調な売上を示しましたパチスロ機向け液晶表示基板の「鬼武者3」が引き続き販売を伸ばし、売上拡大のけん引役を果たしたほか、携帯電話向けゲーム配信も堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は22億10百万円(前年同期比47.2%増)となりました。



パチスロ機「鬼武者3」

人気ゲーム「鬼武者」シリーズが、趣向もあらたにパチスロ機に登場。CG技術を使用した映像が20インチの大型液晶画面に展開されます。



その他の部門

その他の部門につきましては、主なものはライセンス許諾などのロイヤリティ収入で、売上高は11億87百万円(前年同期比8.7%増)となりました。



「カプコンレトロゲームコレクション」攻略本とゲームソフトのセット商品を販売するなど、当社ソフト資産の有効活用を図っております。

Topics

トピックス



「バイオハザード4」
(ニンテンドーゲームキューブ用ソフト)



「モンスターハンター2」
(プレイステーション2用ソフト)

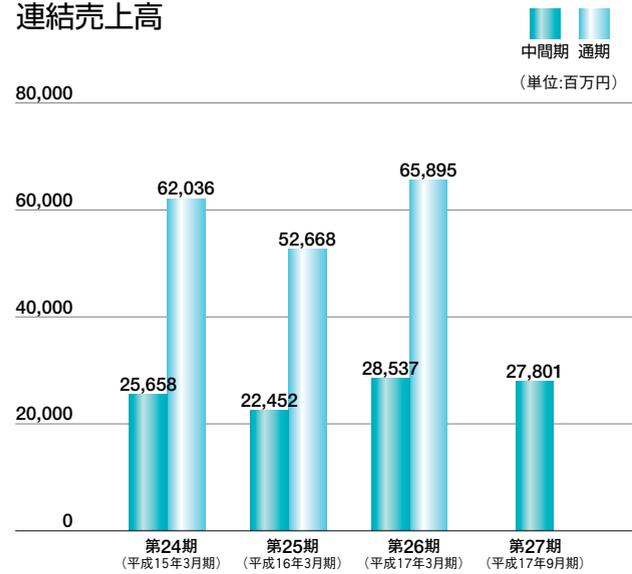


「大神」
(プレイステーション2用ソフト)

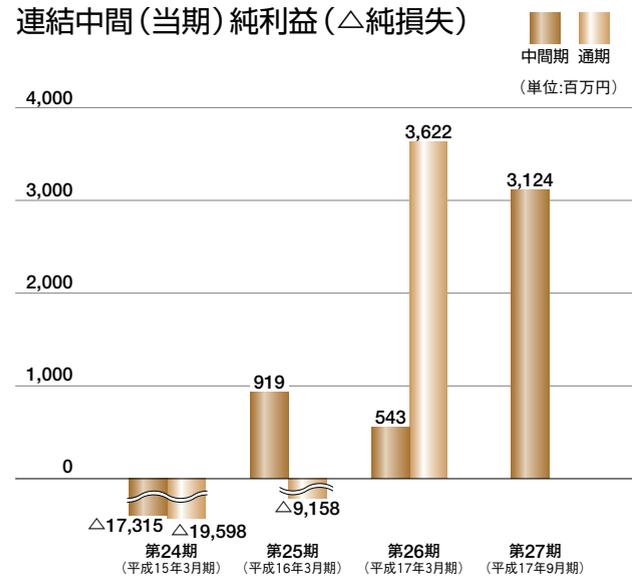
「第9回 CESA GAME AWARDS」(主催：社団法人コンピュータエンターテインメント協会)が10月27日に開催され、当社の「バイオハザード4」が優秀賞を受賞しました。また、「GAME AWARDS FUTURE」においては、「モンスターハンター2」および当社子会社のクローバースタジオ株式会社が開発した「大神」の2タイトルがFUTURE賞を獲得するなど、昨年に引き続き当社グループの作品に高い評価をいただきました。



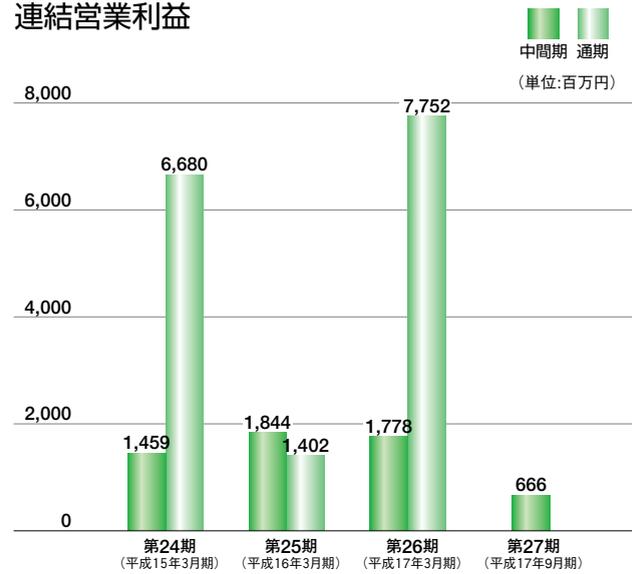
連結売上高



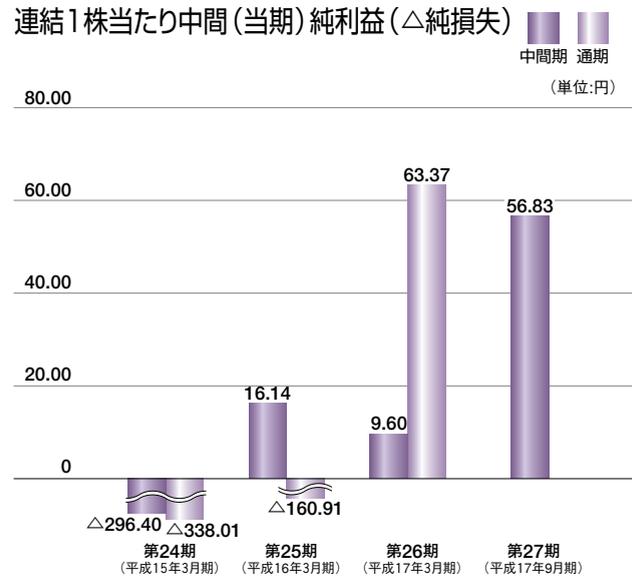
連結中間(当期)純利益(△純損失)



連結営業利益



連結1株当たり中間(当期)純利益(△純損失)



中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期 (平成17年9月30日現在)	前中間期 (平成16年9月30日現在)	前 期 (平成17年3月31日現在)
【資産の部】				
流動資産		【 62,313】	【 61,943】	【 78,884】
現金および預金		33,667	29,832	43,538
受取手形および売掛金		9,955	11,243	14,417
有価証券		199	999	1,999
たな卸資産		3,183	3,792	3,912
ゲームソフト仕掛品		9,633	10,047	9,399
繰延税金資産		4,106	4,298	4,004
短期貸付金		1,280	1,567	1,285
その他		1,433	1,929	1,455
貸倒引当金		△ 1,146	△ 1,769	△ 1,128
固定資産		【 29,745】	【 30,128】	【 27,476】
(有形固定資産)		(13,808)	(14,628)	(13,881)
建物および構築物		6,503	6,941	6,677
機械装置および運搬具		93	68	84
工具器具備品		584	587	588
レンタル機器		92	121	107
アミューズメント施設機器		2,057	2,430	1,878
土地		4,476	4,475	4,472
建設仮勘定		—	4	72
(無形固定資産)		(523)	(770)	(636)
(投資その他の資産)		(15,413)	(14,729)	(12,959)
投資有価証券		2,022	1,918	1,562
長期貸付金		836	3,603	865
繰延税金資産		8,158	7,909	6,029
破産債権更生債権等		108	114	108
その他		4,730	4,911	4,804
貸倒引当金		△ 442	△ 3,726	△ 410
資産合計		92,058	92,071	106,361
【負債の部】				
流動負債		【 14,124】	【 29,048】	【 31,344】
支払手形および買掛金		4,908	5,038	8,472
短期借入金		4,192	5,594	4,893
1年以内償還予定の転換社債		—	12,262	12,262
未払法人税等		230	117	559
賞与引当金		232	442	1,137
返品調整引当金		111	274	210
その他		4,448	5,319	3,809
固定負債		【 42,273】	【 31,339】	【 42,525】
転換社債		25,000	25,000	25,000
新株予約権付社債		11,500	—	11,500
長期借入金		4,480	5,180	4,830
退職給付引当金		780	692	740
その他		512	466	454
負債合計		56,397	60,387	73,869
【資本の部】				
資本金		【 27,581】	【 27,581】	【 27,581】
資本剰余金		【 15,336】	【 15,337】	【 15,336】
利益剰余金		【 △ 2,167】	【 △ 7,196】	【 △ 4,681】
その他有価証券評価差額金		【 583】	【 389】	【 470】
為替換算調整勘定		【 △ 558】	【 △ 791】	【 △ 1,103】
自己株式		【 △ 5,113】	【 △ 3,635】	【 △ 5,111】
資本合計		35,660	31,684	32,491
負債および資本合計		92,058	92,071	106,361

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
売上高		27,801	28,537	65,895
売上原価		20,517	19,758	43,640
売上総利益		7,283	8,779	22,255
返品調整引当金戻入額		99	425	489
差引売上総利益		7,383	9,204	22,744
販売費および一般管理費		6,716	7,426	14,991
営業利益		666	1,778	7,752
営業外収益		(454)	(561)	(719)
受取利息		232	95	216
受取配当金		13	13	13
為替差益		201	366	340
その他		7	86	149
営業外費用		(213)	(853)	(1,073)
支払利息		123	138	265
貸倒引当金繰入額		32	615	625
その他		57	100	181
経常利益		907	1,486	7,399
特別利益		(114)	(134)	(66)
償却債権取立益		114	—	—
投資有価証券売却益		—	67	—
事業譲渡益		—	66	66
特別損失		(122)	(143)	(459)
固定資産除売却損		18	80	121
役員退職慰労金		44	—	—
投資有価証券評価損		59	62	314
投資有価証券売却損		—	—	22
税金等調整前中間(当期)純利益		899	1,476	7,006
法人税、住民税および事業税		272	193	628
過年度法人税等		39	—	—
過年度法人税等還付額等		—	△ 49	△ 58
法人税等調整額		△2,536	788	2,813
中間(当期)純利益		3,124	543	3,622

中間連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
【資本剰余金の部】				
資本剰余金期首残高		15,336	24,852	24,852
資本剰余金減少高		0	9,515	9,515
配当金		—	569	569
自己株式処分差損		0	0	0
資本金および資本準備金減少差益取崩額		—	8,945	8,945
資本剰余金中間期末(期末)残高		15,336	15,337	15,336
【利益剰余金の部】				
利益剰余金期首残高		△ 4,681	△16,727	△16,727
利益剰余金増加高		3,124	9,531	12,610
中間(当期)純利益		3,124	543	3,622
資本金および資本準備金減少差益取崩額		—	8,945	8,945
持分法適用会社増加に伴う利益剰余金増加高		—	42	42
利益剰余金減少高		609	—	564
配当金		549	—	564
役員賞与		60	—	—
利益剰余金中間期末(期末)残高		△ 2,167	△ 7,196	△ 4,681

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,091	1,194	7,977
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 636	△ 972	△ 1,099
財務活動によるキャッシュ・フロー		△13,864	△ 2,155	6,251
現金および現金同等物に係る換算差額		737	636	277
現金および現金同等物の増減額		△11,670	△ 1,298	13,406
現金および現金同等物の期首残高		45,538	32,131	32,131
現金および現金同等物の中間期末(期末)残高		33,867	30,832	45,538

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年9月30日現在)	(平成16年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)
【資産の部】				
流動資産		【 47,560】	【 49,172】	【 63,487】
現金および預金		21,933	17,842	30,740
受取手形		2,012	735	1,002
売掛金		7,898	9,206	12,694
有価証券		199	999	1,999
たな卸資産		2,231	2,756	3,065
ゲームソフト仕掛品		9,427	10,048	9,249
繰延税金資産		2,204	2,114	2,300
短期貸付金		1,470	9,462	6,636
その他		1,128	1,565	1,630
貸倒引当金		△ 945	△ 5,558	△ 5,831
固定資産		【 44,792】	【 42,807】	【 41,931】
(有形固定資産)		(2,776)	(3,171)	(2,678)
建物		177	207	187
構築物		1	1	1
機械装置		0	0	0
車両運搬具		14	7	6
工具器具備品		525	524	533
アミューズメント施設機器		2,057	2,431	1,878
土地		0	0	0
建設仮勘定		—	—	72
(無形固定資産)		(498)	(751)	(616)
(投資その他の資産)		(41,517)	(38,884)	(38,636)
関係会社株式		23,700	24,670	24,470
長期貸付金		4,586	8,700	9,715
破産債権更生債権等		108	114	108
繰延税金資産		8,338	7,909	6,012
差入保証金		5,365	5,455	5,393
その他		2,293	922	1,874
貸倒引当金		△ 2,273	△ 7,514	△ 7,564
投資等評価引当金		△ 602	△ 1,373	△ 1,373
資産合計		92,352	91,979	105,418

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年9月30日現在)	(平成16年9月30日現在)	(平成17年3月31日現在)
【負債の部】				
流動負債		【 11,385】	【 25,919】	【 27,754】
支払手形		1,146	1,027	2,533
買掛金		2,381	2,752	4,009
短期借入金		3,492	4,894	4,193
1年以内償還予定の転換社債		—	12,262	12,262
未払法人税等		77	96	234
賞与引当金		106	230	902
返品調整引当金		111	274	210
その他		4,069	4,381	3,408
固定負債		【 37,782】	【 26,150】	【 37,702】
転換社債		25,000	25,000	25,000
新株予約権付社債		11,500	—	11,500
退職給付引当金		780	692	740
その他		501	458	461
負債合計		49,167	52,070	65,457
【資本の部】				
資本金		【 27,581】	【 27,581】	【 27,581】
資本剰余金		【 15,336】	【 15,337】	【 15,336】
資本準備金		7,465	7,465	7,465
その他資本剰余金		7,870	7,871	7,870
資本金および資本準備金減少差益		7,865	7,865	7,865
自己株式処分差益		4	5	5
利益剰余金		【 5,099】	【 627】	【 2,192】
中間(当期)未処分利益		5,099	627	2,192
その他有価証券評価差額金		【 281】	【 —】	【 △ 36】
自己株式		【 △ 5,113】	【 △ 3,635】	【 △ 5,111】
資本合計		43,185	39,909	39,961
負債および資本合計		92,352	91,979	105,418

中間損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)
売上高		21,774	19,672	47,542
売上原価		16,335	14,802	33,956
売上総利益		5,438	4,869	13,585
返品調整引当金戻入額		99	425	489
差引売上総利益		5,538	5,294	14,074
販売費および一般管理費		4,136	4,051	8,476
営業利益		1,402	1,243	5,598
営業外収益	(441	583	689)
受取利息		93	45	108
受取配当金		83	10	10
為替差益		230	430	408
業務受託収入		11	6	32
その他の		23	90	129
営業外費用	(524	464	745)
支払利息		20	27	51
社債利息		61	61	122
貸倒引当金繰入額		393	307	420
その他の		49	68	150
経常利益		1,319	1,363	5,542
特別利益	(114	—	—)
償却債権取立益		114	—	—
特別損失	(122	80	338)
固定資産売却損		7	—	—
固定資産除却損		11	80	119
役員退職慰労金		44	—	—
投資有価証券評価損		59	—	—
投資有価証券売却損		—	—	88
関係会社整理損		—	—	131
税引前中間(当期)純利益		1,311	1,282	5,203
法人税、住民税および事業税		179	174	262
過年度法人税等		39	—	—
過年度法人税等還付額等		—	△ 49	△ 57
法人税等調整額	△	2,423	530	2,241
中間(当期)純利益		3,516	627	2,757
前期繰越利益		1,582	—	—
中間配当額		—	—	564
中間(当期)未処分利益		5,099	627	2,192

●株式の状況 (平成17年9月30日現在) ●

会社が発行する株式の総数 150,000,000株
 発行済株式の総数 58,435,819株
 株主数 23,510名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
有限会社クロスロード	6,771	11.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,628	7.92
辻本憲三	2,900	4.96
辻本美之	1,669	2.86
辻本良三	1,545	2.65
辻本春弘	1,545	2.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,528	2.62
モルガンスタンレー・アンド・カンパニー	1,472	2.52
有限会社ケンゾー	1,170	2.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	998	1.71

(注)当社は、自己株式3,468千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

●役員の状況 (平成17年9月30日現在) ●

代表取締役社長 辻本憲三 監査役(常勤) 山口省二
 取締役(専務執行役員) 辻本春弘 監査役(常勤) 平尾一氏
 取締役(専務執行役員) 小田民雄 監査役 黒田守雄
 取締役(常務執行役員) 飛澤宏 監査役 中山好雄
 取締役(常務執行役員) 初野純孝
 取締役 北村恭二
 取締役 堀 紘一
 取締役 家近正直

(注)1. 取締役 北村恭二、堀 紘一および家近正直の各氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
 2. 監査役 山口省二、黒田守雄および中山好雄の各氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

IR Information

IR 情報

●IRホームページのご案内

<http://ir.capcom.co.jp/>

当社では、株主や投資家の皆様に最新情報をタイムリーに提供することを目的として、ホームページを活用したIR活動にも注力しております。
 IRホームページは、9月にリニューアルを行い、新たに「株価情報」や「IR資料室」を追加するなど、コンテンツの更なる充実を図っておりますので、ぜひご活用ください。

IR資料室
 マーケットデータや人気ソフトの販売本数をグラフや画像等でわかりやすく掲載するとともに、決算説明会の様子を動画で配信するなど、豊富な情報を取り揃えております。

株価情報
 IRトップページにて現在の株価(20分遅れ)や詳細なチャートを表示しております。

<トップページ>

最新情報
 いま注目すべきIR情報を大きく中央に表示したことに加え、新着情報やプレスリリースなどの最新情報を素早く確認できるシステム(RSS)にも対応しております。

●携帯電話からもアクセス

<http://m-ir.jp/c/9697>

当社の業績概況や株式情報が携帯電話から閲覧できるほか、「株価の終値」を毎日お知らせいたします。

QRコード(二次元コード)の読み取りに対応した携帯電話をお持ちの方は右の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。

※ご利用方法はお手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。



『アニュアルレポート2005』発行

本年度は、CEO・COO・CFOの各責任者が当社の戦略を経営責任、経営執行、財務の3方向からご説明するとともに、グラフや写真を多用して事業内容や研究開発体制をご紹介するなど、当社の企業活動をより深くご理解いただける内容にしております。ご希望の方は当社IRチームまでご連絡ください。

株式会社カプコン 広報室 IRチーム
 TEL: 06-6920-3623 E-mail: ir@capcom.co.jp



株主メモ

決 算 期 毎年3月31日
定 時 株 主 総 会 毎年6月中
基 準 日 定時株主総会 3月31日
配当金受領株主確定日 利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

1単元の株式の数 100株
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村証券株式会社 全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話
およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)
0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
ホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

○なお、貸借対照表および損益計算書に関する情報は、当社ホームページ
をご覧ください。

<http://www.capcom.co.jp/ir/finance/publicinfo.html>

上 場 証 券 取 引 所 東京・大阪証券取引所

株式会社 **カパコン**



環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用して
おります。